
雑記帳、又の名をネタの干し場所

高郷 葱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雑記帳、又の名をネタの干し場所

【コード】

N0829BA

【作者名】

高郷 葱

【あらすじ】

思い立ってしまい、丁度ノツて設定を作ってしまったモノ等々を『とりあえず』で書き起こしたら晒して反応を見てみようという魂胆のページ。

要は試供品みたいなモノ。

色々な要素が含まれるので注意。

基本、誤字脱字を気にせずネタを垂れ流す予定。

概要説明

これは登下校中とか、休み時間と休み時間の間とか、待機中とかに
思い付いたがままにネタ練りをして出来上がってしまったモノを寝
かせ過ぎで腐らせる前に日の元に晒してしまおうという魂胆のペー
ジです。

要は公開しているネタ帳程度のシロモノ。

反響次第では本腰入れて書くかもしれないが。

『こんなのやってみて』とか『こんなの見てみたい』とか言ってく
だされば可能な範囲で応えるかも……

当然のことながら『思い立ったが吉日』がモットーになってしまう
のでご注意を。

………実は『メイガス』投稿開始からちょうど一年だからペ
ージだけ作っておいて中身は後でと思っていたり

IS：一夏を女にしてみた。(TS版)(前書き)

今日、散歩がてらに繁華街に出ようと電車に乗った時に何故か閃いたネタ。

構想中の二次系のネタの大半がTS要素有りな気が………

IS：一夏を女にしてみた。（T S版）

唐突な上に意味不明だが俺、織斑一夏は男だ。
生物学上『男』に生まれて約十五年。

『女性しか扱えないパワードスーツ』インフィニット・ストラトス
を動かしてしまったというトラブルこそあったけど、男である事には
変わらないのだ。

……………なのに、

「どうして俺の体にこんなモノがついてるんだよ！」

それなりに鍛えてはいたのに華奢になった腕脚、まるで病院着のよ
うな服に見事な曲線を描かしている、年不相応（と思われる。クラ
スメイトには居なかつた。）立派な乳房^{むね}。
オマケに髪の毛も少しばかり伸びている。

要約すると、男なハズの俺は『何故か女になっていた』。

ネタで言い表すなら

あ…ありのまま 今 起こった事を話すぜ！

『気がついたら女の子になっていた』

な…何を言っているのかわからねーと思うが
俺も何をされたのかわからなかった…
頭がどうにかなりそうだった…夢だとか思い違いだとか
そんなチャチなもんじゃあ断じてねえ
もつと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ…

と、言ったところか。

…何言ってるんだろ俺。
取り乱しすぎだろ。

「とか言ってる割には落ち着いてるよね」

「まあ、原因に心当たりがありますからね。」

思い返してみよう。あれは

* * *

二月も終わりに近づいたころ、本来ならば受験を終えて仲間と楽しく残り少ない中学生生活を過ごしている筈だったのに

『おりむらさーん、いるんでしょー!』

『出てきて話しを聞かせてくださいよー!』

『君の才能はこんな場所で腐らせておくべきではないのだ。是非とも我が国でその才能を』

俺は何が間違ったのか世界的な有名人になってしまい、

「……………勘弁してくれよ、もう……………」

連日のように詰めかけてくる研究者、大使館職員、記者に野次馬etc…要は招いてない客人の波状攻撃にさらされて精神的に追い詰められていた。

『ピリリリリ！ 東さんからお電話だよ』

「！」

突如、携帯電話が鳴る。

何故か設定されている筈の着信音（と言ってもデフォルトのブザー音だけど）とは違う着信音だけ。

俺は恐る恐る、電話を取った。

「も、もしもし？」

『やーやー、いっくん。大変な事になってるみたいだね』

相手は、着信音で名乗った通りに東さんだった。

「た、東さん？どうして…？」

ていうか、俺は東さんに電話番号教えてない筈なんだけど。まあ、東さんだし。

『ちーちゃんに頼まれちゃってね。今すぐ行くからねー』

「え、あ、ちよ!?!」

電話がプツ、と音を立てて切れるが先か、否かのタイミングで

「ハイとうちゃーく。」

「早っ!」

俺の部屋の押し入れから現れる束さん。

なんでそんなところから？

「さてさて、お困りのいつくんを助けるためのアイテムはこちら!」

じゃじゃーん、とか言いながら何やら栄養ドリンク剤みたいな瓶を掲げる束さん。

背後に青いネコ型ロボットのスタンドが見えた気がするのきつと気のせいだと思つ。

「これをぐいつ、とイケば万事解決!新しい世界が広がる事間違いない!」

さあ、さあ!と勧めてくる束さん。

『現状からの解放』と『束さんが持ってきたクスリを飲む恐怖』の葛藤の末に勝ったのは、現状からの解放だった。

大きく深呼吸してから一気に瓶の中身を喉の奥へと流し込む。

「おお、いい飲みっぷりだねえ。」

不意に、視界がぐにやりと歪んだ。

「え」

「心配しないで、大丈夫だよ。」

優しげに微笑む束さんの顔がちらりと見えた処で俺の意識は暗転した。

* * *

「で、俺に何したんです？」

俺は『俺を女にした元凶であろう人物』 束さんに問う。

「ナノマシンを飲んでもらったんだよ」

「なるほど。ナノマシンで身体を作り変えたんですか。 っで、それは何処のSF小説の話ですか！どうして俺を女に…」

「だってね、『いっくんが男の子なのにISを動かせちゃったから大変な事になった』んでしょ？」

「まあ……………」

ちなみに原因は開発者たる束さんにも判らないとか。

「だったら、いっくんが女の子なら無問題」
もーまんだい

なるほど。

俺が女ならば『女性にしか反応しないIS』が動いても問題は無い。

そっちの意味では問題ないけど……………

「確かに　　って、俺の意志とか戸籍とかの問題とかいろいろ問題が　　」

「大丈夫。戸籍なんてハッキングかませば一発だし、いっくんもこれからゆっくりと洗脳しちゃえばいいんだし」

「！」

「ってなわけで、はい」

「……………アルバイト応募書類？」

何々？

『@クルーズ フロアスタッフ

希望勤務日：月水金土日、四月からは毎週土日

エントリー者名：織斑千夏ちなつ

年齢：16才

性別：女

特技：家事一般

(ry

』

「名前はいっくんとちーちゃんから一文字づつ取ってみました。ち

なみに原本は受理済みで合格通知もこの通り」

ぺらり、と見せてくる合格通知。

「家はちゃんとアパート借りてあるからそこに暮らしてね。あ、必要そうな物は全部用意してあるから」

「え、ちょ」

準備良過ぎ!?

これって計画的犯行なんじゃ…

「でも言葉遣いとかでボロ出しちゃいそうだし、まあそれはそれでアリかもしれないけど念の為に」

ぷす

「東さん、お」

『俺』と言おうとした途端に静電気が走ったような衝撃を味わう羽目になった。

「よしよし、いっくんが男の子っぽい言葉遣いしたら、静電気が走るから気をつけてね」

「話し聞いてくれてないし」

「じゃ、あとは適当に頑張ってねー」

東さんがボタンを押すと特大の衝撃が走り、俺はまた意識を喪った。

……なんか多くね (ぴしっ) 多くないかな、このパター
ン。

* * * * *

『千夏ちゃん、次三番ね』

「は、はい あっ」

べちっ

「………また胸からバランス崩してこけたぞ」

「何も持って無くて良かったな」

「ドジッ娘、良いな」

「あ、あはは………失礼しました」

* * * * *

「おおさこ たいき大迫大貴。 なんでか世界で二人目のISが使える男って事にな
ってるけどよろしく」

「一夏、なのか……」

「久しぶり、箒」

「聞けよ」

IS：一夏を女にしてみた。（TS版）（後書き）

キーワードは『によたいちか』と『一夏はみんなの嫁』。

一夏の婿になってゆくヒロインズと突っ込み（ボケの対義語の方）に廻るヒロイン奪取目的のオリキャラもとい『オリ主（笑）』のドタバタGLコメディになる予定。

戦闘？

嫁を守るために婿たち^{ヒロインズ}が頑張ってくれるんじゃない？

一夏が引っ込み思案キャラっぽく見えるのは束さん謹製『言葉遣い矯正ナノマシン』の放電を回避する為に不用意な発言をしないようにしてる為。

と、まあ、だいたいこんな低クオリティな妄言吐くのにこのページを使う予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0829ba/>

雑記帳、又の名をネタの干し場所

2012年1月2日00時52分発行